

妊娠後期に膀胱タンポナーデにて 発症した膀胱血管腫の1例

倉敷中央病院泌尿器科 (部長: 荒井陽一)

前川 信也, 大久保和俊, 青木 芳隆*
岡田 崇**, 前田 浩**, 荒井 陽一

A CASE OF BLADDER HEMANGIOMA SHOWING BLADDER TAMPONADE DURING LATE PREGNANCY

Shinya MAEKAWA, Kazutoshi OKUBO, Yoshitaka AOKI,
Takashi OKADA, Hiroshi MAEDA and Yoichi ARAI
From the Department of Urology, Kurashiki Central Hospital

We report a case of bladder hemangioma manifesting bladder tamponade during pregnancy. A 25-year-old woman at 36 weeks of gestation was admitted with a two-week history of gross hematuria and clot retention. Blood hemoglobin concentration was 6.3 g/dl. After blood transfusion and Caesarian section, cystoscopy was performed. Bleeding was noticed from a strawberry-like tumor 5 mm in diameter near the right ureteral orifice, which was easily resected endoscopically. Histopathological diagnosis was cavernous hemangioma of the urinary bladder. This is the first report of a case of bladder hemangioma during pregnancy.

(Acta Urol. Jpn. 46 : 483-485, 2000)

Key words: Bladder hemangioma, Pregnancy

緒 言

妊娠中に膀胱腫瘍が発見されることは比較的稀である。今回われわれは、妊娠後期に膀胱タンポナーデにて発症した膀胱血管腫の1例を経験したのでここに報告する。

症 例

患者: 25歳, 女性, 妊娠36週。

既往歴: 7歳時両側膀胱尿管逆流症根治術。

現病歴: 1996年10月13日妊娠34週に肉眼的血尿が出現し, 近医産婦人科を受診した。膀胱炎として保存的に加療されていたが, 血尿が持続, 排尿困難をきたしたため, 10月25日当院泌尿器科紹介受診となった。膀胱鏡を施行したが, 凝血塊が多く詳細な観察は不可能であった。膀胱内持続灌流を開始し, 産婦人科緊急入院となった。

入院時現症: 顔面青白色, 下肢に浮腫を認める。

内診: 外子宮口は1指通過可能, 内子宮口は閉鎖。

入院時検査成績: RBC $227 \times 10^4 / \text{mm}^3$, Hb 6.3 g/dl, Ht 19.9%と高度貧血を認めたが, 血小板, 出血時間, PT, APTTは正常であった。

画像診断: 腹部超音波断層法では右水腎症, 膀胱内凝血塊を認めた。腎に対し超音波カラー Doppler法を施行したが, 腎動静脈奇形を示唆する所見は得られなかった。MRIでは両腎に明らかな flow void は認められず, 腎血管病変は否定的であった。しかし右尿管内部の信号が不均一であり, 右腎からの出血が疑われた。

産科的検査: 腹部超音波断層法で胎盤, 胎児に異常なし。ノンストレステストでは reactive。

入院後経過: 直ちに濃厚赤血球の輸血を開始した。胎児が36週と熟しており, 分娩後泌尿器科的処置を行



Fig. 1. Cystoscopy revealed a strawberry-like tumor.

* 現: 福井医科大学泌尿器科学教室

** 現: 京都大学医学部泌尿器科学教室

うことにした。濃厚赤血球 800 ml 輸血後、帝王切開術を施行、引き続き膀胱鏡を施行した。

膀胱鏡所見：右尿管口後方に、長径 5 mm ほどの蕁状の腫瘍を認めた (Fig. 1)。血管腫が最も疑われ、同部位からの出血が確認された。他に膀胱内に病変を認めず、両側尿管口の観察では血尿を認めなかった。腫瘍部位の止血にて膀胱内は清明となった。ついで右 RP を施行したが、腎盂から中部尿管までの拡張を認めるほかに、陰影欠損などの異常は認められなかった。以上から膀胱血管腫からの出血と考え、同部位の cold cup biopsy を施行した。数度の cold cup biopsy にて腫瘍は完全に切除され、十分に止血し、手術を終了した。

術後経過：術後より血尿は消失した。術後10日目出血と思われる血尿を認めたがすぐに軽快した。右水腎症は自然消失し、妊娠子宮によるものであったと思われる。術後3年血尿の再度を認めていない。

病理組織学的所見：病理組織学的に腫瘍は海綿状血管腫であった (Fig. 2)。腫瘍は表在性であり、筋層には血管腫を認めなかった。

考 察

血管腫は稀でない腫瘍であり、良性腫瘍のうち7%

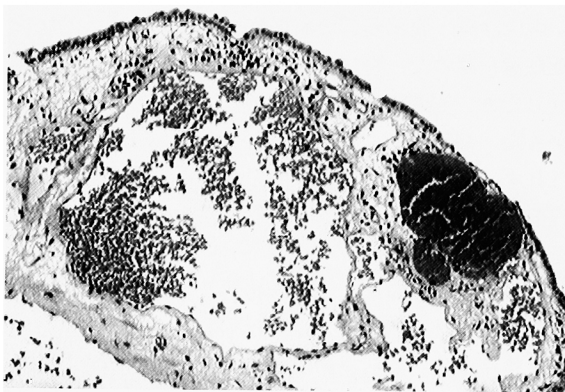


Fig. 2. Histological findings indicated cavernous hemangioma of the urinary bladder (H & E staining).

を占め小児に多い。先天性に見られるものも多く、真性腫瘍か過誤腫性病変なのかははっきりしない¹⁾。皮膚や粘膜表層に好発し、肝や脾、膵、ときに脳にも認められるが、膀胱血管腫は比較的稀な疾患である²⁾。本邦報告例71例を集計した南出らの報告によると、性別では男女差なく、ほぼ半数が30歳未満に発症する。大きさに関しては、示指頭大までのものが約60%を占める。治療法については開放手術が約70%を占め、経尿道的手術は約30%である³⁾。Hendry らによれば、膀胱血管腫の深達度は表在性が36%、筋層以上の深さをもつものが64%であり、止血が困難であるため膀胱部分切除術が推奨されてきた⁴⁾。しかし1990年、Smith らが neodymium : YAG laser により13例の膀胱血管腫を加療し、良好な治療成績をあげたと報告しており、治療法として着目される⁵⁾。本症例では size も小さく表在性であり、生検鉗子のみで容易に切除可能であった。

妊娠中の血尿は、妊娠中毒症、膀胱炎、腎盂腎炎によることが多いとされている⁶⁾。妊娠中に膀胱腫瘍が発見されることは比較的稀であり、本邦ではわれわれの症例が10例目と思われる (Table 1)⁷⁻¹⁴⁾。組織学的には移行上皮癌が8例、尿管管腫瘍が1例であり、膀胱血管腫は本症例が1例目と思われる。

妊娠中、循環血漿量は、36週をピークに1,500~2,000 ml 増加する。また血球成分も、30週をピークとして20%増加する¹⁵⁾。妊娠中には胎盤における血液の貯留、動静脈吻合、妊娠子宮による腸骨静脈の圧迫、子宮、卵巣静脈よりの血液環流の増加などにより、骨盤内静脈叢にうっ滞がおこるといわれている¹⁶⁾。本症例においても骨盤内静脈叢にうっ滞を生じていたと思われ、そのために、非常に小さな血管腫から、膀胱タンポナーデを生じるほどの出血をきたしたと考えられる。

結 語

1. 妊娠後期に膀胱タンポナーデにて発症した膀胱

Table 1. Reports of bladder tumors during pregnancy in Japan

Pt. No.	Author	Age	GW	Symptom	Size	Histopathology
1	Sayeki ⁷⁾	36	15	macrohematuria	6×5×1.2 cm	TCC
2	Kohno ⁸⁾	24	9	macrohematuria	thumb head size	TCC
3	Terada ⁹⁾	30	17	macrohematuria	little finger head size	TCC
4	Hioki ¹⁰⁾	29	22	macrohematuria	3 cm	TCC
5	Miura ¹¹⁾	27	27	bladder tamponade	quail egg size	adenocarcinoma
6	Ikei ¹²⁾	36	37	macrohematuria	little finger head size	TCC
7	Kimura ¹³⁾	24	33	macrohematuria	5×5 cm	TCC
8	Kimura ¹³⁾	34	6	macrohematuria	little finger head size	TCC
9	Ishibashi ¹⁴⁾	23	7	asymptomatic	little finger head size	TCC
10	presented	26	36	bladder tamponade	0.5 cm	hemangioma

GW: gestational week, TCC: transitional cell carcinoma.

血管腫の1例を経験した。

2) 妊娠中の循環動態の変化が血尿を高度にせしめたと推察される。

本論文の要旨は第230回泌尿器科学会岡山地方会において発表した。

文 献

- 1) 飯島宗一, 影山圭三, 石川栄世, ほか: 組織病理アトラス: pp. 334, 文光堂, 東京, 1989
- 2) Melicow MM: Tumors of the urinary bladder: a clinicopathological analysis of over 2500 specimens and biopsies. *J Urol* **74**: 498-521, 1955
- 3) 南出雅弘, 小瀧隆英, 山西友典, ほか: 膀胱海綿状血管腫の1例. *泌尿紀要* **42**: 683-685, 1996
- 4) Hendry WF and Vinnicombe J: Haemangioma of bladder in children and young adults. *Br J Urol* **43**: 309-316, 1971
- 5) Smith JA and Dixon JA: Neodymium: YAG LASER irradiation of bladder hemangioma. *Urology* **24**: 134-136, 1984
- 6) Baird D: The upper urinary tract in pregnancy and puerperium with special reference to pyelitis of pregnancy. *J Obst Gynec Scand* **43**: 435-459, 1936
- 7) 佐伯英明, 三浦邦夫, 五十嵐信寛, ほか: 妊娠第15週に発見された膀胱癌の1例. *日泌尿会誌* **73**: 1058-1062, 1982
- 8) 河野信一, 酒本貞明, 緒方二郎: 稀な妊娠時の膀胱癌の1例. *西日泌尿* **47**: 1199-1202, 1985
- 9) 寺田為義, 秋谷 徹, 内藤 威: 妊娠に合併した膀胱癌の1例. *泌尿器外科* **2**: 1031-1034, 1989
- 10) 日置琢市, 山下敦史, 柳川 眞, ほか: 妊娠中に発見された膀胱腫瘍. *臨泌* **45**: 51-53, 1991
- 11) 三浦秀信, 西村健作, 内田欽也, ほか: 妊娠中に膀胱タンポナーデにて発見された尿管腫瘍の1例. *西日泌尿* **54**: 1328-1330, 1992
- 12) 池井義彦, 工藤慎吉, 本田正之, ほか: 妊娠に合併した膀胱腫瘍の1例. *日泌尿会誌* **83**: 1548, 1992
- 13) 木村文宏, 坂本英雄, 清水俊次, ほか: 妊婦に発生した膀胱移行上皮癌の2例. *日泌尿会誌* **85**: 1683-1686, 1994
- 14) 石橋啓一郎, 松本哲夫, 伊藤貴章, ほか: 妊娠中に発見された膀胱腫瘍. *臨泌* **48**: 512-514, 1994
- 15) 林 知子, 東條克能, 酒井 紀: 妊娠時における内分泌代謝検査5. *水電解質代謝. 産と婦* **43**: 1561-1565, 1995
- 16) 木村好秀, 塩田真理: 次回妊娠へのアドバイス. *産婦の実際* **39**: 1533-1537, 1990

(Received on February 16, 2000)
(Accepted on April 1, 2000)